

ハイブリッド手術室

[ハイブリッド血管撮影装置]

はじめに

最近よく耳にする「ハイブリッド」という言葉ですが、その意味は「ふたつの要素を組み合わせて作られたひとつの」を指します。当院のハイブリッド手術室は、手術室と血管撮影室のそれぞれの要素を兼ね備えた、全く新しい概念の手術室です。今回は、そのふたつの「いいとこどり」を実現させた、ハイブリッド血管撮影装置についてご紹介します。

特殊撮影一課 課長代理

大築 慎一

おおつき・しんいち
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師

医療技術は日進月歩で進化を遂げています。私たちスタッフもそのスピードに遅れをとらないように、日々新しい知識や情報を取得しております。そして、それらを活用し患者さんにより良い医療を提供できるよう心がけております。

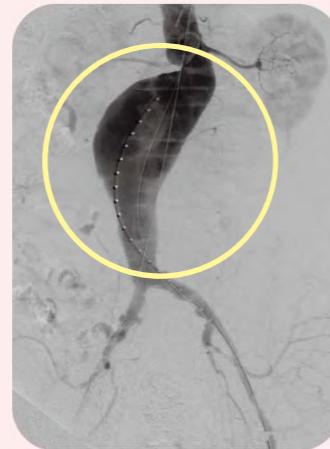
Check!

ハイブリッド手術とは？

開腹や開胸を必要としないカテーテルを用いた血管内手術と、外科手術をひとつの部屋で同時に行う手術のことをいいます。カテーテル治療の特徴である、微細な血管や病変をさまざまな角度から描出することができ、外科手術だけでは困難であった「患者さんの負担を最小限に抑えた治療」を可能にしました。当院では、主に大動脈瘤や大動脈解離を開腹(胸)せずに血管の内側から治療する「ステントグラフト内挿術」および、大動脈弁を血管の内側から人工弁に置換する「TAVI」も行っております。

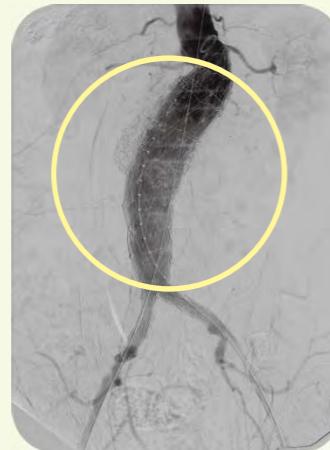
※ Transcatheter Aortic Valve Implantationの略語で「経カテーテル大動脈弁置換術」

術前



腹部の違和感の訴えに対して超音波検査を行った際に、偶然見つかった大動脈瘤です。(○印)

術後



血管の内側からステントグラフト(○印)を留置することによって動脈瘤の中に血液が流れなくなり、破裂する危険性がなくなりました。腹部を切開せず、足の付け根を数cm切開するだけで済むので、患者さんの負担を最小限に抑えることができます。

一般的に、血管撮影室で行う治療は全身麻酔を施すことはありませんが、ハイブリッド手術室で行う治療は全身麻酔が必要になります。そのため、麻酔機器や超音波装置などと干渉しない動きが可能な血管撮影装置でなければなりません。

当院ではシーメンス社製の多軸型透視・撮影装置「ARTIS pheno」を導入いたしました。この装置は関節が6つもあるロボットCアームを採用しているため、周辺機器やスタッフに干渉することなく、さまざまな方向や角度から撮影が可能です。

ハイブリッド血管撮影装置 ARTIS pheno

Cアームが体の周りをぐるっと回転することにより、患者さんを動かさずにCTと同じような画像が撮影できます。



当院のハイブリッド手術室

